

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473100921
法人名	社会福祉法人 大富福祉会
事業所名	グループホーム ソフィアライフ
訪問調査日	平成20年11月17日
評価確定日	平成21年1月15日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1473100921		
法人名	社会福祉法人 大富福祉会		
事業所名	グループホーム ソフィアライフ		
所在地 (電話番号)	横浜市港南区下永谷3-17-10 (電話)045-820-2561		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤4人、非常勤23人、常勤換算8.05人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての1階～2階部分		
------	--------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,066円		

(4) 利用者の概要(20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2		4 名		
要介護3	8 名	要介護4		2 名		
要介護5	2 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	81.8 歳	最低	59 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀越医院、朝倉医院、磯子中央病院、愛希整形外科、ないとうクリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは市営地下鉄下永谷駅から徒歩10分、近くに横浜環状2号線が通じており、周辺は閑静な住宅街で環境良好である。近くに同法人が運営する特別養護老人ホームと有料老人ホームがある。広い駐車場の奥に足湯施設を設置し、利用者と家族の交流の場として活用している。
管理者を含め看護師2名が業務に携わっており、医療と福祉の連携体制が充実し、ターミナルケアを実施している。各種医療機関との連携や理学療法士の指導によるリハビリ、法人の管理栄養士の献立指導による栄養管理・食事形態への配慮など法人のスケールメリットを生かしている。職員の「その人らしさを支援する」という理念に沿った取り組みによって、利用者は明るい日々を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 課題とされた災害対策の備蓄品については、改善を図っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は非常勤を含む全職員に配布され、各自記入してユニットごとにまとめ、管理者がそれらを再度まとめた。完成した自己評価は全職員が読み、介護を考える良い機会として活用した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 年4回の開催を予定し、本年はすでに3回目を終了している。家族、自治会長、医師、地域包括支援センター職員、事務所職員2名が参加した。内容は、ホームの現状報告、外部評価結果報告について意見交換をした。自治会長からは、地域でのボランティアの募集方法などについて助言をもらった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問が多く、面会時には利用者の日常の様子を伝えている。また、必要に応じて電話で状況を説明している。預かり金は事務職員が管理し、家族の来所時に直接、または郵送で定期的に報告している。家族からのささいな意見も大切に扱い、場を設け、時間をかけて一人ひとりの思いを聞いている。ターミナルケアを行った利用者のお別れ会を足湯施設で行うなど、家族の要望を取り入れている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、港南区の週1回の清掃活動に参加している。認知症予防の講演会をホームで企画し、近くのスーパーや医院にチラシを置き、地域に働きかけをしている。ホームの納涼祭では、踊りのボランティアから協力を得ている。散歩や買い物の時には地域の人と挨拶を交わしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛のある生活と利用者の尊厳を大切に考え、なじみの暮らしが継続できるホームを利用者と一緒に創造していくことを基本理念とする」と独自の理念をうたっている。更に、「ゆったりと、自由な暮らし、安らぎのある暮らし」など当ホームでの生活について9つの方針を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員会議やユニットごとの座談会(それぞれ月1回)、内部研修、連絡ノートなどを通し、全職員に向けて理念の確認・共有化を図っている。2人のユニット長は、まず「その人らしさ」を第一と考え、思いやりのある介護についてスタッフと話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、港南区の週1回の清掃活動に参加している。認知症予防の講演会をホームで企画し、近くの商店や医院にチラシを置き、地域に働きかけをしている。ホームの納涼祭では、踊りのボランティアから協力を得ている。散歩や買い物時には地域の人と挨拶を交わしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は非常勤を含む全職員に配布され、各自記入しユニットごとにまとめ、それらを再度管理者がまとめた。完成した自己評価は全職員が読み、介護を考えるよい機会として活用した。昨年課題とされた災害対策の備蓄品については、改善を図っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の開催を予定し、本年はすでに3回が終了している。家族、自治会長、医師、地域包括支援センター職員、事務所職員2名が参加した。ホームの現状及び外部評価結果を報告し、意見交換をした。自治会長からは、地域でのボランティアの募集方法などについて助言をもらった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	港南区のグループホーム連絡会に出席し、ホームの現状を行政担当者に伝えている。運営推進会議の報告書を郵送している。また、生活保護課や介護福祉課に出向き介護保険の申請や医療保険についての相談をしている。区主催の感染症予防の研修会に参加し対策を学んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多く、面会時には日常の様子を伝えている。利用者に変化のあった時などは必要に応じて電話で状況を説明している。預かり金は事務職員が個人別出納帳で管理し、家族の来所時に直接、または郵送で定期的に報告している。年4回「ソフィアだより」を発行し、家族へ手渡しや送付をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所の際やケース会議の際などに、家族と接することが多い。家族からのささいな意見も大切に扱い、場を設け、時間をかけて一人ひとりの思いを聞いている。併設の足湯施設を利用者や家族に開放しており、家族間の交流もある。ターミナルケアを行った利用者のお別れ会を足湯で行うなど、家族の要望を取り入れている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の異動はなく、職員の入れ代わりは少ない。退職者については、引継ぎ期間をおよそ1ヶ月間設け、新職員と共に勤務を行っている。職員の退職については、理解できる利用者にはしっかり説明し、納得してもらっている。家族には一人ひとりに伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は、外部研修14回、内部研修5回を実施し、多数の参加があった。 年度毎に外部研修情報に合わせた計画を立て、職員を選び研修の機会を与え人材育成を図っている。内部研修は2ヶ月に1度行い、外部研修に参加した職員のレポート報告会としている。研修資料は職員間で共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡会の交換研修で交流を行って、6名の職員が他のグループホームで研修を受けている。また調査日には、他ホームの職員が交換研修生として働いていた。管理者も同業者との交流を通じて情報交換し、サービスの向上に努めている。法人内の研修会や講演会には職員も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者・家族にホームを見学してもらい、入居申込を受けて職員が自宅を訪問している。イベントやお茶の時間を利用して、2～3回ホームに来てもらい職員と話し合い、様子を互いに見ながら入居するかどうかを決めている。本人、家族にひと月くらいかけて、納得するまで考えてもらう例もある。入居者のペースに合わせて、思いを確認しながら自然に馴染みの関係を作っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から大根の千切りなど料理の仕方を教わったり、記録を書く際には文字を聞いたりなど、多くのことを教えてもらっている。エプロンの結び目を直してもらうなど、互いに支えあう関係になっている。「健康に気をつけて」「ありがとう」の言葉や利用者の笑顔が嬉しく、職員は元気をもらい、仕事の励みになっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向把握は、その人らしさを保つ上で重要なことであると捉えている。1対1の会話で意向や希望を聞いたり、家族からも聞いている。意向把握の困難な人は、日々レクリエーション等を行う中で、何を好み、喜び、嫌うかなどの把握に努めている。センター方式のアセスメントシート「私の暮らしシート」を活用している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ごとに1対1の担当制をとり、担当の職員が中心となり全員がアセスメント表を作成している。医師や看護師からも意見を聞いて、それらを基に計画作成担当者が計画書を作成している。ケース会議で介護計画の内容を家族に説明し、意見があれば取り入れ、介護方針を共有している。この過程で全職員が計画作成に関り、情報を共有化している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は詳細に記載し、ケアの内容ごとに番号をつけている。ケース記録にはその番号を赤字で記入し、時間を追って記録している。詳細な経過記録を元に、日常的に細かい見直しをし、6ヶ月ごとに介護計画を新たに作成している。また、容態の変化等に応じ随時計画変更を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人設営の足湯施設が併設されており、利用者や家族が月2回利用している。看護師が2名おり、医療連携体制が充実している。理学療法士が月1回来訪し、機能訓練を行っている。その助言を受け、職員による日常的なりハビリを実施している。理美容は、美容師の資格を持っている職員が、非番の日に希望者に対して行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医にかかる場合は、家族が受診に付き添っている。協力医が複数あり、各医院の内容ファイルから家族が主治医を選び、直接依頼している。本人・家族の立場、主治医の状況を考慮し対応している。往診は、内科が毎週、歯科が月2回ある。他に皮膚科・泌尿器科、精神科の往診がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ソフィアライフ重度化、看取りに関する指針」があり、入居時に家族・利用者に説明している。医師と家族の話し合いを中心に看取りを実施している。医師が「伝える時期」と判断した場合、家族の役割等を示しながら、ケアプランを変更し、職員はターミナル態勢をとる。最期が間近になった時には家族から同意書をもらう。医師とホーム、家族が連携して対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時にプライバシーについて教育している。利用者についてホーム外では話さない、利用者に対する言葉遣いはプライドを傷つけないように慎重に対応する。薬の袋など本人と分かるものは、名前がわからないように切って捨てる、など心掛けている。個人情報等の書類は事務室のスチールケースに施錠して保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを作るため、朝食時は声掛けをするが、本人の希望によりゆっくり寝ている人もいる。体調により、居室で休む人もいれば、食事の片付けをする人もおり、本人の意思を優先し、一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。手伝い、レクリエーションの種類を職員が提示し、利用者を選択してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房担当の職員が調理をし、一緒に「いただきます」をした後、食事が始まる。職員も一緒にテーブルを囲み、あいさつをしたり、和気あいあいと会話を楽しみながら、食事をしている。職員は、笑いの中にもさりげなく食事を促したり、介助したりしていた。利用者も下膳の手伝いなどをしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回、一日2～3人のペースで、曜日は決めていない。時間帯を決めているが、柔軟に変更している。汚れや汗を流したい時にも入浴可能で、足湯も月2回楽しんでいる。入浴したがる人にはその人に合った説得をしたり、タイミングを見て誘導している。音楽をかけたリ、お香をたいて気分を変えることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに応じた家事やレクリエーションを心がけている。食器洗いや洗濯物たたみ等、その人の残存機能を活用し、できることを見つけ、役割を持つことを支援している。書道、マージャン、ビデオ鑑賞、歌を歌うなどその方に合った楽しみ方を見つけている。ゲームやボール遊び、外気浴、干し柿作り等、気晴らしも様々である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1階ユニットでは、天気の良い日は、庭でお茶を飲むなどの外気浴、足湯や近くの生協で買い物しながらの散歩を楽しんでいる。2階ユニットでは、毎日買い物に1～2人が行っている。また、近くの畑で大根や柿の収穫をしたり、花屋をのぞいたり、外食したりしている。寝たきりの人はリクライニングシートで外気浴をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、各ユニット、居室共に鍵はかけていない。夜は玄関を施錠する。見守りケアを職員間で徹底し、鍵をかけないケアを実践している。持ち場をはなれる時は他のスタッフに声をかけ見守り漏れのないよう心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、防災訓練を春・秋2回実施し、避難訓練で誘導の仕方、避難場所などを確認し合っている。地域の防災訓練に職員が参加している。消防署に直結する自動防災機器を備えている。事務所には、町内会災害対策組織の連絡表がある。備蓄用の水はホームに備え、食料は直近の法人にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>法人の管理栄養士の作成した献立を厨房担当の職員が調理している。調理形態も常食・かゆ食・ミキサー食など一人ひとりに対応している。水分も取りやすいように数種類の飲み物を用意している。看護師が食事摂取量をチェックし、水分摂取量の少ない人のINチェック表を作り記録している。1日約1リットルを目安に適切な水分確保を支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関を入ると正面ガラスの向こうに中庭がありホッとする空間がある。花を飾り、ラベンダーのお香が漂っている。施設内はバリアフリーで、リビングから直接足湯施設に行ける通路がある。また、テーブル、柱をはさんでテレビに向けてソファがセットされ、食後もゆったりできる。壁には利用者の貼り絵、書道作品、季節を感じる作品が掛けられ、暖かさを感じる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはベッド、本人のお気に入りの家具、奥様が使用されていた桐だんす、本箱、仏壇、家族の写真など馴染み深いものが置かれている。また、趣味の植物や花などを飾り、心豊かに安心して過ごせる自分の部屋にしている。一人ひとりが各々自由にくつろげる生活空間を整え、清潔である。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 大富福祉会 グループホーム ソフィアライフ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10
記入者名 (管理者)	内藤 郁代
記入日	平成 20年 10月 5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念は柱だと考えるので、常にスタッフに認識してもらえ る為の努力は重要と考えている。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえ るよう取り組んでいる</p>		機会あるごとに伝えながら理解に努める。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		挨拶、笑顔を怠らずに接する等、常に心掛けることを意識し続ける。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		運営推進委員会を利用しながら、地域の方々との交流を持つ努力をする。現在1回/Mの早朝清掃に参加しているが、ほとんど合う事はない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>具体的に話し合いはしていないが、電話や来所による、相談事への対応は、丁寧な対応を心掛けている。例えば地域のネットワーク又は、介護保険制度のこと(サービス利用の仕方)等。</p>		<p>地域住民(特に要介護者を抱えた家)の方々の「あそこに行けば安心できる、対応してくれる」と思って頂けるような場所になることを望んでいる。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>意義は十分理解しており、高価な調査料など支払っているわけだし、活用していなくては意味がないと思っている。</p>		<p>ホームのケア理念を元にケアを進める為には、質の向上が必要と思うので、その認識強化を図りたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>4回/Yの会議を持ち、ホームでの活動状況を、地域に向けて発信(伝達)する格好な機会であり、大変意義があると感じており、所意見も頂き、サービス向上に役立っている。</p>		<p>運営推進委員会の主たるテーマだと認識しているので、この機会を多いに活用したい。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区内のグループホーム連絡会(不定期)もあり、保健師等との交流の機会はある。又、生活保護課や、介護保険課の窓口などにも極力出向くよう意識している。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在のところ、ご利用者の中に適応に当たる方はないが、制度については、ご家族に対しては「ソフィア便り」にてお伝えしている。スタッフに対しては、全員の理解は乏しいと思う。</p>		<p>スタッフに対しての指導...内部研修を通して伝える機会を作っていく。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>座談会や内部研修の場を中心に「相手の立場になったケア」というコメントを常時口にしており、スタッフの不十分なケアは極力見逃さず、正すようにしている。</p>		<p>最も重要なことなので、認識を持ち続けたいと考えている。でなければ、ご利用者は穏やかに暮らせないので。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点を確認しながら理解を求め、納得していただいている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、ご利用者が思いを伝えやすい、人的な環境になるよう努力している。		入居者中心のケアである以上、最も重要な条件だと考えるので、努力を重ね続けていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時orケース会議の時に細かく伝えるようにしており、金銭管理面に置いても事務員から定期的に報告を行っている。		継続させていく。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会としては、設けていないが、ささいな意見でも大切に扱い、時間をかけ話し合う場を設け、理解を求める努力をしている。又、意見の反映の視点も認識している。		ご家族が意見・不満・苦情を言いやすい雰囲気を作ることが強化を図る。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者のみの判断で決定する事と、スタッフの意見を取り入れながら方向性を決めなければならないことをわきまえるようにしている。		スタッフ全員で向上していくホームであるので、今後も常時相談していくようにする。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	特に病状などにより、ホームでの対応が困難な状況と判断し、ご家族に伝えるも、「是非にホームでの対応」と、強く依頼されることもあり、そのための医療面の態勢等を整え、ご家族の協力を得ながらのケアを行う等の努力をしている。		ご家族の(入居者含む)要望もだが、スタッフがとまどわなくケアが可能なような態勢の整備も重要と考えるので、今後もその視点を持ち続けるようにする。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフ一人ひとりが、ホームで働く事で成長し、モチベーションが下がらなく生き生きと仕事ができる環境作りに精を出す努力をしている。スタッフが変わることについても、オリエンテーション教育にも力を注いでいる。		スタッフのことを思いやる努力は怠らないようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や資格がなくても、入居者の心に響くケア(主に声かけ、接し方)ができる、スタッフもいるため、採用に関しては、さほど資格にはとらわれていない。その代わりに、オリエンテーション教育や内部研修には力を入れて、取り組んでいる。	今後も、内・外の研修には積極的にすすめていきたいと思っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に確実にしているわけではないが、講師を招いたり、ケアの向上につながるテーマの勉強会には、同法人間(特養・特定施設など)で声かけあうシステムあり。	必要性が多いにあると考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	故障物や箇所は速やかに修理の調整をしたり、無駄な労力削減対策として、庭に出るためのスロープの取り付けをオーナーに依頼するなどしている。	働き易い職場作りは大切なことだと考える。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者をはじめとし、他のスタッフの意見を取り入れ(主にハード面・人選)てくれている。	運営者と密接に関わっていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	堅苦しくない雰囲気ですぐに接し、世間話の中から根拠を持って会話を進め、その中から本人の思いを引き出す努力をしている。その際、筆記用具は取り出さない。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所相談来所時に、十分に時間をかけて話しを聞くようにしている。相談者が納得できるまで関わる事を心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ICFの理念に基づき、本人や家族の思いを受け止め、出来る限りの対応を行う視点を常に心掛けている。		規制的(そのような対応は出来ません)な対応...伝え方は簡単だが、本人・家族の思いを受け止め、それに向かって態勢を整える努力がなくて「その人らしさ」はあり得ないと考える。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者のペースに合わせ、思いを確認しながら、自然に馴染めるような工夫・努力をしている。		尊厳を維持する上で、大変重要なことなので、あせらず、慣れていただき、良い関係を築いていく努力を続ける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理性観念にあまりとらわれずありのままの表現で、諸経験を語られる姿に常に感動し、自分の心を清める思いがしている。		「してあげる」「してもらっている」と言う関係でなく、常に刺激しあい、成長を続けることで入居者とスタッフの気持ちが通い合うと思う。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームのスタッフのみのケアでは、当然限界があり、家族とは、時を見ては話し合う場を作るようにしている。意見の違いも当然生じるが、中途半端にしないよう努力している。		ホームスタッフと、家族の思いがひとつになってこそ「入居者中心のケア」につながると考える。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅ケアをされた(受けていた)頃は多少なりともお互いストレスを感じておられる。入所により距離をとることで大抵穏やかな自然な親子関係に戻るケースが多いが、そのための努力を心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中に登場させたり、面会に来ていただいた時には丁寧な対応を心掛けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的に表情把握に努め、孤立を感じたら、個別に厚く関わるよう心掛けている。		「これがこの人なんだ」と一人ひとりをしっかり受け止める姿勢は常に大切と考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「今後も気軽に相談してくださいね」と伝えて終えるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に、意見の把握は行うようにしている。できない時でも、その入居者にわかりやすい伝え方で伝え、納得を求めている。		「その人らしさ」を強調(維持)する上で重要なことだと思う。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にまつわる実態調査時にICFのセンター方式のアセスメントツールを利用し把握している。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常時に「出来ない」部分はさることながら「出来る」部分を見つけ出す努力(リハビリやレクリエーション、日常の家事等に)をしている。		エンパワーメントこそ活気ある暮らしにつながっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットごとの座談会(1回/M)の時、参加スタッフとアセスメントを行っている。又、本人、家族の意見も取り入れ、ケアプランを作成している。		ケアに関わる人々のトータル的な見解がなくして、介護計画は作れないと思う。
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	容態の変化に応じて、毎日・2～3日毎、という風にその都度変更している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有・実践・プランの見直しに活かしている。		継続していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能 法人母体との協力態勢 隣接した足湯施設2回/Mオープンし、入居者やご家族に開放している。足湯施設は、宿泊可能により、死亡された方のお別れ会の場として、2日間利用されたケースもある。(今年9月)		有効活用できるよう、工夫する事も必要と思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	適宜、地域の小学生来所ボランティアや、1回/年防災訓練、イベント時のボランティアの協力等。		地域資源探しや活用法については、スタッフと話し合う事もあるが、今後も強化取り組みの必要を感じている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センターとの連携は常に持っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談したり、受けたり気軽につながりを持つことが出来ている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	この件については、相当神経を使っている。本人・家族の立場。主治医の立場を大切に考え、対応するようにしている。現在スムーズである。		ホームに往診のかかりつけ医が多様化しつつあるため、今後、より一層の配慮の必要性を感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	1回/2W精神科医の往診があり、必要に応じ相談し、本人と面談してもらったり、対応について相談もしている。又、極力、家族の立会いを求めている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに2名看護師が在職している。その1名の看護師により、医療面の管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のMSWや医師と話し合う事も必要に応じて行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族との話し合いを中心に、医師が伝える時期と判断した場合、家族の役割等示しながら、ケアプランを変更し、スタッフにもターミナル突入の態勢への方向を伝えすすめている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	この場合のキーワードは家族の決断だと思っている。ホーム側では「出来ない」ことを家族に伝えるが、家族の思いが、ホーム側の対応できないという不安面をカバーできる程の協力や納得があれば「出来る」に変わる事もある。もちろん主治医の協力の上である。		主治医の中には、休日や夜間の往診困難なケースもあり、その場合、24H対応の医師の確保できている。その時期について、家族・スタッフ・医師と慎重に決める必要性を感じている。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な情報伝達の必要性を認識しているが、移動先では、これまでさほど詳細は求めてこないケースが多かった。しかし、重要な情報は家族を通し伝達している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の話題はホーム以外ではしないよう心掛けているし、スタッフにも伝えられている。 個人名のある資料(記録物等)はホーム外に持ち出さないようにしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居時、家族からの情報のあったアセスメント表などを元に、伝わりやすい方言や言葉で伝えている。又、自己決定も大切にしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望される入居者は少ない為、選択肢を提示し、選ばせる事もしている。</p>		<p>重要な事を認識しており、常に意識し続けるようにしたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容師の資格を持つスタッフが両ユニットともおり、入居者納得のもとでほとんどスタッフがやっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人の思いを確認しながら、食事作りや準備・片付けを職員とともにやっている。</p>		
<p>55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>トータル的に判断し嗜好を楽しんでいただけるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意がなく失禁のある入居者の場合、プライドを損わないよう、さりげなく、自然に誘導するようにしている。但し、入居者のその時々での気分によっては拒否もある。その場合は、無理には勧めない。		排泄面は最も神経を注がなければならないと考えており、日々工夫と努力の積み重ねが重要。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は昼間が中心だが、希望に応じる視点は持っている。		楽しめる工夫をする。例えば、脱衣場から音楽が流れる等も楽しめるファクターになるのではと考える。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の環境(清潔面・温度・湿度)は常に配慮している。又、夕食後から就寝迄の過ごし方も本人に応じた対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、アセスメントしながら、一人ひとりに応じた家事やレクリエーションを心掛けている。入居者間での相性もあるので、距離をとることもある。間に介入し、コミュニケーションをスムーズにする工夫もしている。		「こんな楽しい嬉しいことがあるのか」と生きる意味を感じてもらうために日々努力と工夫を惜しまない。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	長年、家計のやりくりをしてきたため、お金のことが気がかりなのはあたりまえなので、手元にあることで安心なケースの場合一定の金額を所持している。そのことを家族の理解を求めている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車でドライブしながら、大型スーパーに買物に行ったり、鎌倉に紫陽花見物に行くなど、シーズンに応じて取り組んでいる。		ホーム外に出ると、普段発見できない入居者の行動又は、言動に触れることが出来る良い機会とおもっている。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各入居者・家族の思いを聞き、誕生日祝いとして、それに答える方法を取り、家族とスタッフと入居者で、海を見に行ったり、横浜の夜景を見に行く事も行った。		連れて一緒にいきたいとの想いはスタッフも家族もあっても、片方のみでは心細いもの。両方でいくことで、お互い安心して楽しい時を過ごすことが出来るので、今後もそのように取り組むたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族にとってはどうなんだろうと、考える事も必要だと思っている。実際には、スタッフがダイヤル押して会話してもらっている。		手紙や、ハガキを書く機会を作るのも、会って話すことと違い、伝わり方が新鮮で良いのかもしれないと思う。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人達の訪問により、和やかな一時を過ごすことができるので、その過ごし方には、常に神経を使っている。		
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、拘束委員会(職員会議に折込)を行っているが、日常ケアにおいて拘束ゼロの状況である。		拘束は信頼関係を壊す事につながるので、やらないよう努力をする。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分理解している。玄関は夜間以外オープン状態にしている。居室は本人が居室側から閉めることはあるが、外からは閉めない。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居場所の確認は常時している。		夜間一人勤務のため、ケア重複時に行動する入居者の把握が課題だと考える。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なぜ必要なのか?「...だから必要」など、しっかりとした根拠を持つようになっている。又、預る場合「もしも、...の時、危険だから」など理解してもらえるようになっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	PTよりの指導、内部・外部の研修会・防災訓練などでの防止策を講じている。		常に意識を高く持ち続ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内にナースがいるため、直接伝え、直接又は、電話指示にて対応していることがほとんどである。スタッフ入れ替り多い中、認識レベルは同一でない状況である。		個々のスタッフに応じたトレーニングは必要と考えるが、正確に行わないと不十分な理解は逆効果であると思っている。レベル把握からすすめるべきか？
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春(ホーム内スタッフのみ)・秋(消防署職員)の2回/Y、防災訓練はを行ない、入居者もスムーズに行えている。地域へは運営推進委員会を通じ協力を求めている。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている	高齢者ゆえに「いつ何が起こるか計り知れない」など、入居時にまず伝え、後には必要に応じ伝えるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違う状態を見逃さぬことを常時心掛けている。異常を発見時には、その場で共有または連絡ノートで伝達するようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一覧表にして、所定の場所に置いている。又、正確な服薬を見守り、副作用薬効についても視点を注いでいる。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲水量が少ないと感じた入居者には不足しないようinチェックで把握し、不足を補うための工夫を講じている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1回/W 歯科往診を受け、治療orケア必要な入居者を見てもらっている。毎食後とは言えないが、就寝前には丁寧に行っている。		極力 毎食後のケアをすすめる努力をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立ててくれる献立を元に栄養管理を行っている。又、形態も、常食・粥食・ミキサー食など一人ひとりに応じて対応している。水分についても摂取量の少ない人の為に数種類の飲み物も供えている。		生きる原動力なので、常に神経を注いでいく。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研究会(外部)には毎年一人は出席させ、内部研修でその内容を発表し全員に伝えている。インフルエンザ予防接種も毎年行い、マニュアルにより予防策を講じている。		発生しやすい時期毎にスタッフor家族などに対して予防の為の対策の強化に努める。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日1回、調理器具・台所部品の消毒を行っている。余分な物を買わない、期限切れの品物が、冷蔵庫内に入っていないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に入った途端、温かいぬくもりを感じられる雰囲気大切に思っている。玄関先にも花を絶やすことなく1回/M花の種類を変えている。建物の外観も損わないようなオーナーの協力も得られている。		今後も工夫していきたいと思っている。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはお花やお香を絶やさないようにしている。フロアや廊下等共有空間の壁などにも、お花を掛けたり、写真や習字・貼り絵などの作品物、又、ソフィア便り等を飾っている。		今後も工夫していきたいと思っている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや窓側の椅子・喫煙所・庭など移動できるよう配慮している。		「その人らしさ」を守る上で大切なことだと思うので、見守っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅とホームとのギャップが最小限になるため、洋服の掛け方(掛けるもの)・編みかけのセーター・編み棒を置いておくなど工夫している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	神経を使っている 冬には、11月～3月迄加湿器を各居室・フロアに設置している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに3箇所あるトイレは、それぞれの身体機能に応じて選び決めている。手すりは廊下・脱衣所・浴室・トイレ等に取り付けてある。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の家事やレクリエーションのバリエーションを多くする努力をしている。その中からわかる(出来る)力を見つけ出し、発揮できる機会を作る工夫をしている。		活気ある暮らしを続けるために重要な事と考える。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	今夏、フロア～庭に通じるスロープを取り付けてもらったので、スムーズに庭に出られるようになった。 お茶をしたり、外気浴をしたり、気分転換の場として多いに利用している。		積極的に取り組む姿勢でいる。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりとした生活空間を維持すること。

相手(ご利用者orご家族)の立場に立って考えた対応の視点を大切に思っている。その為には、人的環境の整備...座談会や内部研修は、その為の手段であると考えている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 大富福祉会 グループホーム ソフィアライフ
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10
記入者名	細谷 勝彦 他 スタッフ 9名)
記入日	平成 20年 10月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	徐々に地域の方々との交流を出来るように、第三日曜の周辺清掃からはじめている。 独自の理念を作り、実践している。	2人	
	理念の共有と日々の取り組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、ケアをしている。 月1回の座談会、日々の連絡帳等で理念に添ったケアを話し合っている。 全ての職員に徹底するようになっている。	2人	
3	家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会の場等を活用し、ホームの事を理解してもらえるよう取り組んでいる。 面会時等に話している。	2人	ご家族の来られた時等、一緒にお話をしたいと思っている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々との挨拶は掛け合っている。(道路掃除、買物、外出時) 足湯の開催を旗を出してアピールし、地域の人と触れ合いをしている。 行事のある時、近隣の方が立ち寄っている。	4人	小学生など気軽に立ち寄ってもらいたい。 足湯開催の回数を増やし、もっと地域の方が入ってきやすいようにしたい。
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会にて、地域との交流、情報を交換している。 近所の店に買物に行き、その際会話を積極的にする様努めている。 足湯や行事の時に、立ち寄っている。	4人	老人会・行事等に参加できたらと思う。 常に、挨拶はする様にする。町内会のお祭などに参加できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		1人	地域の駆け込み寺的、存在になるといいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。	1人	
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	座談会等で、スタッフには、共有してもらいケアの向上に努めている。その通りです。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者があり、学ぶ機会がある。	2人	今後、内部研修のテーマにしていけばいいと思う。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。平穏で安全な介護をしている為、虐待とは予想も出来ないが、「虐待」については、勉強する機会を得ている。	2人	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	1人	スタッフの意見も取り入れてくれる。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	2人	スタッフの勤務希望100%聞いている。努める様にしている。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		配慮されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア方法等、自分が行ってよかった時は伝えている。 責任ある職員が日頃から、職員を誘導し、研修機会を与え、研修後は、他の職員に研修内容を報告公開して研修内容を共有しレベルアップしている。	1人	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が積極的に行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	足湯の使用。 月1回福利厚生でマッサージを実施(たまにだがうけている)	2人	福利厚生で、月1回のマッサージ(希望者)あり。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相手のペースに合わせ傾聴している。努めている。 初期は、他利用者とは、なかなか打ち解けられない場合も多いので、スタッフが常に、本人の話を聞く様、努力をしている。	3人	不満や不安のない日々を過ごして頂ける様努めたい。 早く、他利用者になじめるようレク等をして、楽しい人間関係が出来るよう支援していく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、少しでも話す機会をもつ。努めている。 初めのうちは、なるべく面会に来ていただくよう、ご家族に話をして関係を少しずつ築いていくようにする。	2人	面会に来て、笑顔で安心して帰宅出来る様に心掛ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。努力している。 必要としている支援を受け止め、職員一同、連絡を取り合い支援していくようにしている。	2人	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、見学(ホーム)から、始まり、徐々に馴染めるよう工夫している。まずは、本人が安心できるよういつもスタッフが目を離さないよう心がけ、すぐに話をうかがえる体制をとっている。	1人	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、豆知識や料理時等、教えて頂いたり、様々な事柄でより良い関係、互角的になるようにケアをしている。教えてもらうことは、たくさんある。生活の場としてケアをしている。安心して生活して頂く様に心掛けている。食事の支度や、裁縫など一緒に作業している。カラオケ大会。誕生会。重要。介護は上下関係ではないと思います。「共に生きる」この思いを忘れず入床(就寝時)1日お疲れ様と、声掛けさせて頂いてます。	2人	
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、近況報告をしたりと、コミュニケーションを大事にしている。ご家族参加の行事など全てのご家族の協力を得てとてもいい笑顔が見られる。 本人の希望、その他を日常の会話の中から感じ取り、ご家族と共に支援していけるようにしている。家族が来所されて本人が喜ばれる笑顔に触れ、日常の状況をお伝えし安心して頂くことに努めている。 自分が介護される立場になって考えている。これらのケアが、即利用者の喜怒哀楽に直結している場合が多い事を考え、勉強させられる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の人生歴も含め、ケアにあたっている。 面会時、安心して家族の方が帰っていく姿がみられる。 ケース会議以外でも、面会時に最近の様子、言葉などを家族に伝え、良い関係が築けるよう努力している。	3人	よりよい関係になっている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えた時は、ゆっくりして頂ける様心掛けている。ご家族の協力がある。	3人	馴染みの人の理解や、場所に行く過程を考えていかなければいけない。 ホームに慣れていただけたら、馴染みの方の面会等も、お声を掛けていただけたらと思う。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に合わせて、出来るだけ関わりがある生活に努めている。相性のあわないらしい人がいるので、なるべくスタッフが入って雰囲気を替える様にしている。必要に応じ、食卓の席替えの実施。ご利用者一人ひとりが孤立しない様、声掛け見守りをしている。目配り、心配りの大切。入居者同志の対話に、より良い方向への盛り上げに話をつなげている。	3人	話の内容を変える。 傾聴し、一人ひとり否定せず「大丈夫ですよ」と受け止める姿勢で、ご利用者と接しています。 これからも、一人ひとりが孤立のないように、関わり合いに支えあえるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作る上で本人の意思の把握に努めている。座談会などで検討する。 関係を気にしている。言葉の少ない利用者においては、ご家族の来所持、お話を伺い参考にしている。 一人ひとりにゆっくり関われる時間を取る。 検討し実行している。	3人	一人ひとりともっと多く接する機会を持てるといいのだが。今まで夜間帯しかゆっくり関われなかったので、日中にも時間を作れる様にしたい。利用者に対する、固定観念にとらわれない様、常に柔軟な姿勢で、利用者に対応したい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に把握を努め、日々の暮らしの中でも努めている。 談話の中から引き出している。 入所の書類(情報)をスタッフ全員が把握する。	3人	新しいスタッフにも入居者全員の情報を把握してもらう様に、常勤より伝える。(チェック項目に入れる)
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態を観察し、日々努めている。日々の記録の確認。 様子観察をしていればその人、その日に即したケアに努める。 生活歴などは、把握している。 座談会での話し合い。 総合的に把握するように努めている。 その人の心の状態を把握しながら、1日1刻を導いている。	3人	日々の記録の確認をし、気になる記入(ADLについて)は必ず記入者に聞くようにする。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	座談会、ケース会議など反映し、計画を立てている。 座談会等で多数の方の情報交換をし介護計画を作成している。 座談会、スタッフ間の意見、それをまとめ、常勤で話し、ケアマネ、ナースと作成。ケース会議とし、家族も参加。 作成している。	2人	
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議などを設け、即した計画を作成している。 変化が生じた場合は、ケース会議を早め、新しく、ケアプランを作成する。 必要に応じて話し合いを持ち見直ししている。 実施している。	2人	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の記入、送りノート・連絡ノートの活用をして、いつも情報交換できるように活かしている。 ケアプランを活かす為に、ケアプランの実践した番号を記録に残している。 個々のケース記録とは別に、連絡ノート、スタッフ交代時の申し送り事項等で漏れの内容配慮。	4人	何か気が付けばリーダーなどに相談する。 記録を生かし、ケアプランの見直しを座談会で話し合いたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の要望を最大限、実行出来る様なケアに努めている。 支援しているのを見ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防とは、現在協力している。避難訓練の実施(消防署の指導あり) ボランティアの方々による演奏会。	1人	
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		2人	良い情報がある時は活用する。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を取り支援している。 内科・皮膚科・精神科・歯科の往診を受けている。 家族とDr.への報告をしっかりと行う。	2人	常勤だけではなく、全スタッフが家族、Dr.への報告が出来る様に、スタッフの意識を向上させたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		2人	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>施設の介護職員と相談している。</p> <p>管理者が看護師なので、日常の健康管理はしっかりと行えている。</p> <p>体調の変化を日々観察し、相談しながら指導の下に日常生活を送っている。</p>	3人	<p>看護師がいる。</p> <p>全スタッフがもっと気軽に、看護師へ情報を伝える様にしていきたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>サマリーに詳しく入居者の状態を(認知症について)記録する。</p> <p>病院との連携はなし。</p>	3人	<p>サマリーに認知症としての状態も記載する様にする。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>全員で共有している。</p> <p>かかりつけ医と管理者が、重度化については主に話し合うが、終末期については家族の想いを尊重する。</p>	1人	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>取り組んでいる。ターミナルも実施している。</p> <p>かかりつけ医の指示を元に、看護師がスタッフにケアを伝える。関わっている。</p>	3人	<p>かかりつけ医、看護師の支持だけではなく、介護士として、その入居者へのケアの最大を考え、対応していきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み慣れた家でも使用している物を、ホーム入居時に居室に置いている。</p>	2人	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>		
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>		
<p>50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>さりげないケアを心掛けている。情報の保護もしている。言葉使いは特に注意しているし、記録等は、名前等は書かず。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない様心掛けている。声かけ・対応は常に入居者の尊厳を尊重している。全員には実行出来ていない。</p>	<p>3人 イニシャルなど用いて記録している。今後は実行していきたいと思っている。マンツーマンでは行えていると思うが、数人同時での対応では、もっと上質なケアを目指したい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々のADLに合わせた、コミュニケーション方法を活用し、納得してもらえるように努めている。レクや日常の手伝い等無理強いはしていない。入浴拒否時は納得して頂ける様声掛けをしている。自分の意思が伝えられる利用者には傾聴を、伝えられない利用者にはYes・Noで答えられる声掛けを心掛けている。性急な対応にならない様努めている。実現の為、努力をしている。「やるせ」ではなく、自分から積極的に行動できるように引き出している。</p>	<p>5人 自己決定出来る場面をもっと増やしたい。自己決定の出来にくい利用者の方は、目の動きや表情から感じられるものを、把握し支援していきたい。自分の意思が伝えられない利用者こそ声掛けを増やし希望の表出を目指したい。職員からの都合で人を動かすと、不穏になる場合が多いので、ご本人納得の行動を引き出す。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意思を優先している。一人ひとりのペースを大切に、希望に応じられるよう支援している。その日の体調や雰囲気など見極めて支援している。あまり無理にはしない様にしている。手伝い・レクレーション・リハビリ・買物などスタッフ側は提示するのみで、決定は入居者。</p>	<p>5人 食器洗いが好きな利用者、洗濯物ならたためる利用者、それぞれ得意な事に取り組んでいただいている。入床の時間は大切なのでなるべく入眠する様に促している。入居者一人ずつのADL好みを把握した上でより細やかな支援を目指したい。スタッフ数、時間的制約があり、現状満足とはいえないが、極力希望に添って支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>		
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>施設的美容師免許を持ったスタッフにより(ボランティア)、カットし本人の希望に努めている。スタッフの一人がその人に合った髪型カットや白髪染めを行っている。催し物がある時等、ドレスアップし化粧をする。本人希望の美容院のある方はそちらに行く。</p>	<p>4人 モーニングケアの髪型は気を使う。希望があれば、ご家族と相談して、美容院でパーマをかけたりできるよう話し合いたい。身だしなみや、おしゃれが出来る様支援を行いたい。利用者の希望に添えるよう支援していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々のADL、その日の体調に合わせて毎日、準備、配膳、盛り付け、片付けを協力してもらっている(入居者は積極的に参加している)。大いに手伝って頂いている。その人の出来る事、工夫すれば出来る事を依頼している。車椅子や、手が麻痺している利用者などに実施していない。得意な面を生かし、一人ひとりの好みを活かしている。得意な分野毎に利用者に声かけし実行している。利用者職員、皆で協力し行っている。</p>	<p>5人 たまには、利用者の希望を取り入れる様にしたい。食器洗いもたまにはしたいとの訴えの方がいらっしやるので実行させたいと思っている。一緒に食事を作る時間に主に、料理について話題を増やしていきたい。食事作り～片付けまで、なるべく職員と一緒に最後まで行っている。</p>
<p>55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>最大限、努めている。お茶の時は甘めにすると飲んで頂ける方、珈琲よりココアを好む方等その人に楽しんで頂ける様心掛けている。お酒等を召し上がる利用者はいない。飲み物を色々用意し、選んで頂く。おやつ希望を聞く。好まない、飲み物は、出来る限り控える様にしている。一律に摂取してもらうのではなく拒否飲料物は(牛乳 野菜ジュース)形を変えるなど工夫。喫煙は食後や好みの時職員同行(安全の為)し喫煙している。</p>	<p>5人 温かい物が好みの方には、温かい物をお届けする様にしている。飲み物は種類だけではなく、温かい物か、冷たい物かまで選べる様にしたい。日常的には出来ていない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は、布下着を使用したりと努めている。記録を毎日付け、排泄パターンを把握している方等、なにげなく誘導している。又、下剤等使用して、便困が続かないよう工夫している。排泄チェック表の記入(管理)を日々行い、トイレ誘導の間隔を話し合っていく。時間帯を見て誘導。水分管理で、薬の使用を控えている。個々のニーズ、プライバシーと習慣を守り、実施している。	4人	なるべく他者に見えないように努めている。日中・夜間共にパターンを掴み、ADLの低下に合わせられる様にする。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者や尿臭のしている方等、入浴していただいている。本人の希望を含め、入浴をしてもらっている。入浴回数の管理はしているが、体調に応じ、また、希望により、出来る限りの対応している。毎日、決まった時間からのスタートになり、3,4人入浴していただくように心掛けている。曜日は決めてないが、時間帯は決めている。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、支援している。その通り実行している。	5人	希望時間等気にせず希望する人全員が入浴して頂けるのが理想だが不可能。立ち上がらない場合など、誘導して立ってもらう様にしている。どうしても、時間を決めていただく事が多いが、希望があれば午前中などに入浴していただく方法も考える。入浴希望のある入居者はなるべく希望に沿える様にしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	希望に応じて休憩して頂いたり、体調を考慮して支援している。個々の状況、状態に沿ったケアをしている。声掛けをし、状況に応じて支援している。傾眠が見られる時は臥床の声掛けを行う。	1人	ベッドから落ちそうな時等、声掛け。状況に応じ支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自主的に洗濯物屋、たたみ、居室の掃除、食器洗いや拭く、収納、盛り付けと手伝っていただいている。アセスメント、ケアプランを含めより良いケアに努めている。実施している。麻雀、習字の日等を設けて実施している。カラオケ等の実施。裁縫の好きな利用者が多いのでレクレーションとしてよく行っている。畑に行ったり、買物、散歩、一人ひとりであった、気晴らしをしている。午前、午後のレクレーション時に活かしている。	4人	楽しみごとをもっと増やしたい。歌が好きな方、手芸、その他レク等。どうしても女性入居者が好むレクが多いので、男性入居者の好む物も取り入れていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用は、いつでも本人は持っていないが、使える状態にしている。個別対応。事務所の金庫にそれぞれのお金を預り、その都度出し入れをしている。個人でお金は所持していない。希望のある時は、本人の所持金を使って買物をしてもらう。	3人	一応、お預かりしている事を伝えている。買いたい物がある時等、本人持参で、本人と職員で買物に行けるよう考えたい。所持金を使って買物をしてもらう入居者は限られている。不穏にならない様注意して他の入居者にも試みたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最大限、外出できる様に努めている。毎日の買物は、常に1~2人は同行している。足湯開催日は、利用している。散歩、買物、外気浴等、声掛けをし、戸外に出かけるよう支援している。	5人	これからは気候の良い日は多いに庭に出たりして外気浴したい。支援している。スタッフからの声掛けではなく、一人ひとりの希望を聞く様にしたい。時間があれば支援していきたい。制約の中で極力支援していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	努めている。お花見、初詣、外食、大型店への買物等、外出支援も心掛けている。それぞれのご家族が、迎えに来て外出している。年間計画で季節毎、1ヶ月毎に実施している。	6人	個々の希望の支援は、なかなか出来ていない。支援している。面会に来られない利用者の方は、職員と一緒に個別で出かけられる様、考えたい。利用者スタッフでの行事ばかりなので家族の参加も考え、行いたい。出来るなら、支援していきたい。未だ実行されてないが、ご家族と共に泊まりで温泉旅行。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が、出来る様には支援しているが、現在、ほとんどご本人からの希望がない為に実施されていない。家族の面会が多く、希望は聞かれない。遠方の人に、はがきを書いて出したりしている。	4人	手紙のやり取りは、取り組みたい。利用者が電話(家族)出来るよう、話し合い、家族からも、電話してもらえるよう話し合いたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも出来る様な体制をとっている。面会者は、多い。お見えになった折、すぐお茶の用意をさせて頂き、気持ち良く過ごせる様にしている。笑顔で迎え、対応している。機会があればしたいと思っている。訪問される方への挨拶の励行、共同空間での他の利用者との会話。ほとんどの家族の方々は、よくホームに訪問して頂いている。誕生パーティの日等参加していただいている。ご家族、知人、気軽に訪問して頂いている。毎日のように来客あり。	3人	入居者の日頃の様子を伝えている。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束は行っていない。方麻痺で多動の方は布団対応にしたりして工夫している。実践済み。	3人	ベッドからの転倒等のケア、ベッドガード等、取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	努めている。見守りケア、声掛けで鍵はかけていない。鍵をかけないケアを実践している。持ち場を離れる時は、必ず他のスタッフに声を掛け、見守り漏れの無い様、心掛けている。	3人	鍵は掛けていない(日中)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全利用者の位置や、様子の観察を重視している。常に見守りケアし、スタッフ間が声を掛け合っている。安全に暮らせている。行っている。日中はもちろん、夜間は定時巡視を行う。フロア担当、AM、PMと決まっており、安全確認を行っている。移動時は声を、掛け合っている。持ち場を離れる時は、必ずスタッフに声掛けし行動している。	2人	買物や外出、散歩などの時は、エレベーターを使っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リスクを回避したケアに努めている。フロアにいる時は常に全員が見える場所にいる。居室にいる方はこまめに訪問する様にしている。雑巾作り等の時は、職員が見守り、針やはさみ等を使用し、作業している。刃物(剃刀等)はホームにて管理(本人に説明の上)。既に、取り組んでいる。	3人	床に水等、気が付けばスタッフ同士気を付ける。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	内部研修をはじめ、ケアの向上に努めている。同じ事故は二度と起こらない様に十分検討する。見守り等さりげなく、全員の居場所を常に把握し、フロアに職員が常にいるよう、声掛けをしながら取り組んでいる。見守りを常に行う。火災防止の為キッチンにはIHを使用。窒息防止の為、食材、調理法にも工夫している。服薬、喫煙は職員と共に行い、転倒、行方不明等は職員が常に気遣っている。	4人	薬など必ず本人の名前を確認するようにする。又、飲んだ事も確認。靴下等、はいたまま寝ていない様気を使う。多動や不穏な入居者がいる場合は、スタッフ間の声掛けを密に行う。取り組んでいきたい。研修参加、専門家による訓練の実施をもっと増やす事を要望。窒息に関しては、誤嚥をなくす為日頃より嚥下体操、体力向上に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルが業務日誌に入っている。内部研修で行っている。看護師が日中勤務している事が多い。 機会があれば、細かい事等知りたい。行っている。	4人	救急手当、初期対応の訓練等、内部研修等で(定期的に)実施していきたい。急変時、事故発生時の訓練を徹底して、身に付く様、定期的に取り組みたい。連絡網等はある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練(避難訓練)を行い避難方法の確認をしている。 消防署に直結している装置あり。 近所勤務のスタッフが多くいる。	3人	地域の方々の協力の働きかけが少ない。地域の人々の協力が得られるよう働きかけをしていきたい。地域の方々の協力を得られるようになると良い。 消火器の設置場所は把握している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その都度、説明して対応している。 往診時、ご家族にも立ち会ってもらい、ドクターと話し合うように心掛けている。 ケース会議でのADL報告時にリスクについても伝える。話し合っている。	1人	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	様子観察を常にしている。看護師がいる時等、すぐ連絡し対応している。 送付を行い、情報の共有をし、対応に結び付けている。 異変が見られた時にはバイタルチェックを行い、必要に応じて看護師に報告。速やかに責任者に報告し対応をしている。 利用者一人ひとりを細やかに対応している為、すぐに体調変化に気付いている。	2人	看護師を筆頭に職員全員に徹底するように、口頭及び連絡帳等で状況対応を知らせている。 食欲がない、痢している時等 バイタルチェック
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストの作成。一人ひとりの服薬と効能等、書類が事務所に掲示されている。確認するようにしている。十分でない。服薬についての副作用等情報はあがるが、私自身100%の理解していない。	4人	全スタッフが、把握出来る様勤めている。服薬の理解を完全にした。副作用については、十分理解できていない。理解をもっと深めたい。 副作用の確認が出来る様なリストを作成するが、処方薬の副作用欄を再確認する様にする。 服薬の確認、症状の変化は常に確認している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な、飲水(1日1000ml)を目標として、便秘にならない様努めている。水分摂取と体操・食べ物等に気を付けている(消化の良い食品)。毎日体を動かすようハビリ、体操を実施している。散歩。献立表により、バランスの取れた食事。 常に取り組んでいる。	2人	便秘気味の方に、毎日センナ茶を飲用して欲しいが、常に勤務していないので、その人のリズムがつかめず。水分補給、排便等チェック
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	努めている。夕食後の口腔ケアは徹底できている。毎食後、口腔ケアを行っている。 食後の口腔ケアを必ず行いたい。(義歯) 毎食後の一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援は、未だ不十分。 口の中まではチェックできていない。声かけ誘導している。	3人	顔や口の、周りは気が付く。 拒否がある入居者も、スタッフを替え、ゆっくりとケアを行う。極力、利用者全員が毎食後、口腔ケアの実施に努力したい。 義歯合わず、再々のお願いをしていた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が少なめな利用者については、引水チェック表に記入し、個々に合わせた量を供給している。(不足しないよう管理) 食事量も、状態により実施している。味・切り方・柔らかさを工夫している。 1日水分1000ccを目標にし支援している。水、お茶と自由に利用者が飲める状態になっている。 管理栄養士に献立作成依頼している。	5人	なるべく、お茶などおかわりを勧める。お茶のおかわりを毎食後、差し上げている。 全員ではないので、これからは全員の利用者の記録を取りたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	努めている。マニュアルが常に見える場所に掲示されている。 インフルエンザは施設で年1回予防接種。外出後、必ず、手洗い、うがいをしている。 研修に参加している。報告会、回覧の実施。座談会、勉強会等、再々講習を受けている。	4人	トイレ後は手を洗うように促す。 アルコール消毒もしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている。食材は毎日、次の日の昼食までとし、常に新鮮な物を用意している。 食材の賞味期限の確認。布巾は使用後すぐ、煮沸・ハイター消毒。夜間キッチン道具は消毒している。冷蔵庫の温度管理を行っている。手洗いも、丁寧に洗っている。常に予防の努力。	4人	古い物は捨てる。ご飯等冷凍する場合は、日付を入れる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	塀による囲いがなく、玄関先はゆったりとスペースがある。花壇を置いたり、入りやすい雰囲気となっている。玄関には業者により季節の花を2週間毎に替えて観賞出来るようにしている。夜以外、鍵をかけていない。花等を飾っている。工夫している。	2人	近隣の方(大人)が、立ち寄って頂ける様にしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけなどで、季節感を出したりと工夫している。明るく外の景色が見え、花、装飾物、ランチョンマット、季節にあった習字と季節を感じて頂ける工夫をしている。 季節感を大切にし、レクリエーションを兼ねて貼り絵などを季節毎行う。	3人	季節に添った製作品をご利用者ともっと一緒に出来る様にしたい。整理整頓は、常に心掛ける。 季節に添って、例えば、月見なら月見気分を味わって頂く。食事にも配慮している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、食卓とソファが配置、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。フロアにソファがあり、大型テレビを観たり、新聞を読んだり、談話されている姿がある。2,3人で台所に入って、食事の支度を交代で行える様工夫している。 テレビ前にソファを置き、独りで過ごせる空間となっている。独りにならない様に、居場所を工夫している。	3人	その場の雰囲気や気を使い場所を移動してもらったりしている。ソファ周りの工夫をし、椅子を増やしお茶が飲める様(グループで)考えたい。季節感はあまりないので、これから、取り組みたい(トイレ)。その他の場所はある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、タンスや仏壇等居室にあり、居心地良く過ごせる様に努めている。お花が好きな利用者は居室に花を飾ったりして過ごしている。(家具、衣類等は全て私物) その人らしい居室になっていると思う。一人ひとり全て違う生活空間になっている。	4人	危険なものや品があれば、相談しながら取除く。 本人の好みの居室となる様にもっと希望を聞く様にしたい。 危険物、現金は家族と相談しながら、対応していきたい。 出来れば、共同空間に畳みのスペースを持ち冬にはコタツ等も置きたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温や湿度には注意をしている。トイレ、浴室の換気扇は一年中使用している。温度調整は、利用者に合わせている。エアコンを嫌がる利用者が多いため、小まめに戸の開け閉めをしたり、エアコンを入れたり、切ったりしながら調整をしている。換気は、スタッフが毎日行う。臭いが気になる時は常に空気の入替えに配慮している。	3人	エアコン、外気温等に気を付けている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置(フロア、廊下等)や、エレベーターの活用で、自立した生活が送れるように努めている。PTからの指導の元、リハビリを行ったり、手・足・口の体操を毎日行っている。手すり等を利用して、リハビリを行っている。バリアフリーとなっており、残存機能を生かしたケアを行っている。	2人	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ない部分については、さりげなくサポートをしている。混乱や失敗等のあった時は、すぐ対応し、長引かせない。関わりを密にしている。 トイレ時(失禁等)で、混乱しない様に、声掛け(定時誘導)等、行っている。工夫している。	2人	他者が介入して雰囲気悪い時等は、すぐにスタッフが介入する。 もっと努力していきたい。もっと会話する時間を作る。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム周辺の散策、日光浴は活用している。玄関前のベンチにかけて歌を歌ったり、おしゃべりしたり時たまする。花や、畑の野菜の収穫等、楽しんでいただいている。外にベンチを置き、外気欲が出来る様にしている。 利用者により、ベランダに植木鉢を置き楽しんでいる。 庭に出るためのスロープがあり、(1F)容易に外に出られる構造になっている。	5人	ベランダは布団干しのみ利用になっているが、もう少し利用方法検討してみたい。 買物、畑や、庭などに出かけている。 ベランダは狭い為、利用者が楽しむ場ではない。ベランダが広いと、1階まで行かなくて、洗濯物を干したり出来るのでいいと思う。 庭、畑、道端の掃除を兼ね、散歩、買物。 定期的にホームの庭、周辺の掃除を、運動散歩を兼ね実施

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に つけた人数です	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	7	ほぼ全ての利用者の
		2	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	9	毎日ある
			数日に1回程度ある
		1	たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	7	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	5	ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
		6	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	8	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	6	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	7	ほぼ全ての家族と
		2	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

無記入:1

無記入:1

無記入:1

無記入:1

無記入:1

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		2	数日に1回程度
		7	たまに
		1	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1	大いに増えている
		6	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	4	ほぼ全ての職員が
		5	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	4	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	6	ほぼ全ての家族等が
		4	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

無記入:3

無記入:1

無記入:1

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に基づいたケアに努めている。

運営者が設け主義ではなく、ご利用者の為なら、資金がかかる事でもすぐ実行してくれる。

利用者全員と、完全に打ち解けたいと思っている。

トイレの右側にも手すり(上下する様な物)があるといいと思う。

常に入居者の心のケアを大切にしています。穏やかに、その人らしく生活して頂ける様、居心地の良い雰囲気作りに力を入れ、何かあれば、すぐに対応しています。尊厳を尊重した上で、家族の様に想いケアに当たっています。

愛のある生活(その人らしさ)を支援したい。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 大富福祉会 グループホーム ソフィアライフ
(ユニット名)	ばら
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10
記入者名	松原 竜介(他 スタッフ 10名)
記入日	平成 20年 10月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	2人	<p>脚が弱い方も車椅子に乗って、近くを散歩しながら地域の方々と挨拶を交わし、このGHIに住んでいる者ですと、力強く伝えたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	3人	<p>利用者、家族、職員は理念に基づいて、日々取り組んでいる。出来ることなら、基本理念である『愛のある生活と入居者の尊厳を大切に考え「その人らしさ」を支援する』をまず、ありきとして介護していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	3人	<p>基本である理念を心に刻み、介護するという反復作業。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	1人	<p>買物、散歩帰り等、挨拶を交わしている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	2人	<p>地域の秋祭り等もあるので、計画をしてみたい。今後は、出来る限り交流に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の評価を踏まえて、直していかなければいけない点は、改善に向けて努力している。 自己評価を読んで記入する事により、支援の再確認が出来る。 数日後に評価表がまとまり職員に配布され話し合う。 個人的には、外部評価を実施する意義は理解に苦しむ。内容は理解している。評価を活かすことは必要だと理解している。(評価かが真実ならば)	1人	
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。 運営推進委員会には出ていないが、会議の時に報告を受けて、スタッフ皆で話し合いをしている。 納涼祭の時も、運営推進会議で意見を頂いたので、それを活かして納涼祭を行った。	1人	
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	座談会で、常に話し合っている。 職員会議で身体拘束委員会の報告を実施している。 虐待はない。利用者が辛い思いをする事の無い様に注意している。 個人的には、注意を払っている。(言葉の暴力は、虐待に等しいと理解する。)	1人	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	管理者が十分な説明を行っている。管理者がしっかり実施している。	1人	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者がスタッフに言いやすい環境作りをしている。会議などで話し合い対応している。利用者並びに、ご家族の言葉を大切に受け止めている。	3人	職員全体が、その空気に包まれる様な態勢を作りたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ご家族が来た時に、現状を報告し、利用者に変化があった時は、電話連絡を行う等、常に変化は伝えている。ソフィア便りに写真や行事など伝えている。	2人	報告できている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	管理者よりスタッフに報告され、会議の時に話し合っている。ケース会議、来訪された際に家族の意見、意向を聞きその都度対応している。	2人	反映している。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に1回座談会や職員会議、2月に1回内部研修を行い、職員の意見や提案を聞く。話し合いを実施している。	2人	職員の意見も聞いてもらえる。反映している。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	常時行っている。		相談によっては勤務の調整が出来る。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な外部研修や2月1回の内部研修、日々働きながら、教われる状況である。 スタッフの行ける人は、外部の講習会など出ている。	2人	外部研修会がある。 内部研修で外部研修の発表・報告を実施している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1度、(グループホーム)交換研修を行っている。	1人	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の生活の中で本人の訴え等を受けた時は、良く聞く努力をし、説明して納得して頂ける様にする。 時間の許す限り、ご本人の話を聞く様努めている。	1人	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3ヶ月に1度、ケース会議(家族、責任者、個担)を行い、家族の話も聞いている。 基本的に、GHであってもサービス業とっているので、お客様(利用者、ご家族)として接している。	2人	個人的には、職員全体にサービス業であることを認識してもらいたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必需品・毛髪カットの依頼がある時には、家族に相談し、職員で足りる時は説明してから行う。 具体的なものに関しては実施できる。が、認知症の部分が関わってくると、他の職員及び管理者と相談する必要があると思う。	2人	外出希望の時等は、季節にも左右されるが、叶えられる様に準備しておきたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何をやるにも本人に確認を取ってから行うようにしている。 入浴拒否の利用者に対しては、本人が納得される様、辛抱強く話し合い安心して入浴して頂ける様にする。 綿密なサービスは実施していない。時間をかけて、徐々にする努力も必要。	3人	家族にも入浴拒否があることを伝え、理解して頂ける様話し合う。 様々な人間関係が外側・内側とおりなす為、時間をかけ意識を持ち取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	晴れている時などは、一緒に外に出て景色等を楽しんでいる。 スタッフ側も、利用者にも励まされたり、学ばせていただいている。支えあう関係になっている。 利用者との会話から喜びや学びを感じている。利用者から学ぶことが沢山ある。元気を貰い、仕事の励みになっている。 共に過ごしながら、毎日の生活の中で必要な衣食住を協力し合い学んだりしながら過ごしている。 築く努力をしている。良いケア(サービス)とは、自分自身についての認識を深めることも重要と考える。	2人	利用者の立場で考え、感情移入を行う。 認知症ケアを学習する。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭・敬老会・誕生会等、入居者と家族と一緒に楽しく過ごして頂く場を作っている。 職員一同、利用者家族一緒に支え方を話し合っている。 築く努力をしている。	3人	施設へのボランティアの呼び掛け。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の方が来た時など「～でしたよ」と伝えている。 施設での生活近況等、来訪された際、家族に話し安心して貰える様にしている。 誕生会や行事等、ご家族に参加して頂き深く利用者を理解し支援している。	3人	ご家族の情報を負担にならないよう巧みにお聴きし、会話の中にも含める。ご家族が払われている気遣いや愛に注意を向ける。 支援している。 ご家族の面会時、楽しく過ごして頂けるよう、足湯の利用や場所を提供したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の場合は、出来る人と出来ない人に分けられると思います。 納涼祭、行事を通して参加して頂ける様声掛けをしている。		ご家族の事や昔の事をお聴きする。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク等は一人では行わず、利用者を複数集め行うようにしている。 一人ひとりに合ったケアを把握し利用者同士がトラブルにならない様に勤めている。 様子を見て声を掛けたり、間に入って話を聞いたり、ゲームに誘ったりしている。 最高齢の利用者に声掛けしてくれたり、手を握って励まして頂く。 スタッフ同士相談して、なるべく全員参加のレクを考え実践している。	3人	利用者一人ひとりの個性を尊重し、利用者同士が関わり合い楽しい時間を過ごせるような場を提供できるような配慮を示す。 気の合わない利用者同士の上手な関わり方。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その後の利用者の様子を伺っている。(メールなどを利用して)必要であればアドバイスもしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より訴えがあった時は、訴えを聞き、できる限りは行っている。本人との会話で希望している事を引き出す様に努めている。個々に趣味趣向が違うので希望を叶えられるよう話し合っている。お話の出来る方には、どんな事をしたいか、どこに行きたいか等、なるべく1対1でしている。困難な方は、自分がその方になったらと、想像して検討している。	3人	介助する時には務めて、話し掛け、利用者の意見を尊重しながら行う。 まだまだ努力が必要だと思う部分である。どんな方でも、自分に置き換えて考える様に努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルで、個人情報を把握している。管理者より報告を受け、把握に努めている。入居時に作成された経歴等は個人情報として、スタッフは把握出来る様になっている。アセスメントケースファイルを見る機会を多くとる様、努めている。	3人	コミュニケーションによって、ご利用者の考え方、思い、好み等を把握しそれに合わせて対応する。 まだまだ、努力が必要なので、努めて機会を多くする。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化を見逃さない様にケアを実践している。他のスタッフからの情報も参考にし、現状を把握するようにしている。心身状態は常に変化している事だと思うので、把握する様に努めている。連絡ノートや日々の記録ノートを参考に快い1日が過ごせる様に努力している。出来ていない。(総合的には)漠然とした1日の過ごし方は把握している。	2人	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議の前にスタッフ全員にアセスメント表を書いてもらっている。月に1度、管理者や職員と共に座談会を行っており、意見交換等をしている。	2人	各人のアセスメント表もパート職員達も提出するよう指導されている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	座談会にて話し合っている。ケース会議の時も職員の意見を参考にしている。	1人	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日(普段と違う事をしたら)、個別の細かい記録、ケース記録を記入し(書ききらない時は別のノートに記入)、日勤から夜勤へと送りにて伝えている(当日のスタッフ全員が把握している)、リハビリ表も個人別に作成している。アクティブノートにも記入している。 当日関わった者が記録し、出来ない時は日勤者に報告し、記録してもらう。個別記録を見て実施する様努めている。又、新しい気付きは、開権一気に記入している。	3人	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が馴染みの生活出来る様に準備し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練に参加している。	1人	近くの小学生と交流
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		1人	地域ケアセンターとの交流
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(歯科、内科、皮膚科、泌尿器科、精神科)往診を受けている。利用者も安心して受けている。定期的を受診も行っている。 ご家族と受診される事もある。 ご家族の意向、施設のかかりつけ医等を通じて利用者本人も安心して受けている。	3人	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護婦なので(安心して)相談できている。 施設内に日々いるので小さな変化にも対応できている。	2人	
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者より、ご家族の意向や話し合いについては、スタッフに伝えられ、皆、方針を共有している。 管理者とご家族が話し合い終末期に向けた方針が検討されている。 今年は2度の終末期を経験し、全員で対応した。	1人	
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今回、ターミナルケアを経験したが、皆で、最後まで良い暮らしを送る為、職員が出来る限りのケアをしました。 スタッフ同士、しっかりコミュニケーションをとり、スタッフ全員で行えた。 家族の意向もあるが、管理者中心に又、職員も出来る事を見極めて支援出来る様に取り組んでいる。 終末期の利用者にしてあげられる事を努力して対応する。例えば、身体を清拭したり、居室を清潔にし快いを提供する。	1人	
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者に対する言葉使いは本人のプライバシーを傷つけないように慎重に対応している。声かけ言葉使いは注意をしている。</p> <p>個人情報はファイルで管理している。</p> <p>薬の袋など本人と分かってしまう物は、切手捨てている。</p> <p>個人的には、努めている。</p>	<p>5人</p> <p>スタッフ同士注意しながら対応すべきと思う。乱暴な話し方、幼稚な言葉使いは気を付ける。個で努めても、誇りやプライバシーを損ねる職員がいれば、徹底にならないので、徹底に努める。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者中心にした対応を行っている。無理な時は説明して分かって貰える様にしていく。本人が納得できるように声掛けし、嫌がるなら、時間を置くなど工夫して本人の意見を尊重する。声かけで本人の希望や思いを引き出せる体制を作っていく様に努めている。</p> <p>利用者が突然不穏になったり、大きい声を出したりした時は、すぐ傍に行き声を掛けたり、何がしたいのか聞いている。</p>	<p>5人</p> <p>1対1での対応も難しい時もあるが、時間をかけて対応する様努力が必要。利用者の希望が受け取れる様努力が必要。既に取り組み中であるが、笑顔の介護サービスが第1であると考えるのでこれからも努める。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調、ペース、精神面を考えて上で支援している。楽しく過ごせる様レク等を行っている。100%とは行かないが、出来るだけ努力している。</p> <p>利用者が退屈しない様に楽しく過ごせるか、レク等を考え工夫している。</p> <p>入浴の時間等は、なかなか本人の希望通りに行かない事もある。</p> <p>各々のペースがあり尊重し守ってあげられるように支援する。</p> <p>100%希望に添って支援していない。100%に限りなく努める様にはしている。</p>	<p>5人</p> <p>時間がないと出来ない事もあるが、スタッフ同士の協力も必要である。参加できる人、出来ない人がいるので、本人の意思に従い無理はしない。</p> <p>不穏な利用者の多い日は、対応が難しいので、スタッフの課題とし応じられる様話し合っておきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容師資格を持つスタッフが定期的カットを行う、行きつけの理容室へ行かれる方もいる。一部の利用者は、外部から美容師が来訪されカット・カラーを行っている。</p> <p>衣類等は、ご家族が購入してくれる。身だしなみに気を付ける。</p> <p>本人希望で外へ行く利用者もいる。その他の人は施設内で支援している。</p> <p>早番(A勤)にて出勤した際は、髪を整えを蒸しタオルでしている。</p>	<p>5人</p> <p>時間がないと、つい勝手に決めてしまい気をつけたいと思う。季節毎の服装を気を付けてあげたい。</p> <p>家族支援がないと難しいので相談していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節の物を食事に取り入れ、何ヶ月かに1回は、出前の日にし、個々に好きな物を食べて楽しんで頂いている。イベントの時など特別メニューを考え、楽しんでもらっている。食事の片付け等出来るご利用者で行う。お茶の時間等、本人が飲みたい物を出すようにはしている。</p> <p>後片付けは一緒に手伝ってもらおう気をつけている。一部の利用者は職員と一緒に食事の、準備・片付けを行い、楽しんでいる。自立支援に当てはまる方へは、実践してもらっている。</p>	<p>6人</p> <p>時々、買物にも同行される。一人ひとりの好みも記憶しておく。決められた献立ではなくご利用者の食べたい物もメニューに加える必要もある。</p> <p>平均して参加出来る様考えたい。今の所、限られた利用者になっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を飲まれる方はいないが、タバコは毎食後1本と決め本人にも納得していただき喫煙している(一部の利用者)。食後のタバコが楽しみな様子。</p> <p>飲み物も常に数種類用意している。希望に応じて飲んでいただく。体調に合わせた支援をしている。</p>	<p>5人</p> <p>喫煙するときは必ずスタッフが付き添い火の後始末を行っている。</p> <p>タバコは1日3本としているが、催促される事もあるので上手に対応している。天気の良い日は足湯の傍で吸われる事もある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自尊心を傷つけないよう声かけし、トイレ誘導をする様にしている。時間毎にトイレ誘導をしている。利用者のプライドを考え、声掛けも難しい時もある。夜間はポータブルも活用している。車椅子から頻りに立ち上がったたりする行為があるとトイレに行きたい合図と思いき声掛けすると行きたいと話される為パターンを活かしている。声掛けしても、難しい方もあり、それでも一人ひとりに合わせ対応している。出来る限り支援しているが、おむつが日常必要な方の交換が完全でない。	6人	問題な点もあるが、利用者の自尊心を損わず、どう対応すべきか慎重に関わりたい。ADLが落ちてオムツ使用になった利用者も諦めずリハを行い再度トイレ排尿出来る様努力している。おむつ交換を努めて実施したい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めずローテーションで週2回入浴されている。失禁時はその人を優先する。入浴前はバイタルチェックを行う。不穩の為入浴拒否のご利用者には、説得をゆっくり行う又は、次の日に入浴したり希望を聞いている。入浴拒否の利用者には、その人に合った説得やタイミングを外さず誘導する。本人の希望通りには無理な時もあり。	5人	その時の状況(午後から歯科往診、午前中マッサージを受ける人)等により午前に入浴することもある。季節の菖蒲湯、柚湯をしている。ADLの落ちている利用者用に入浴介助用具を充実させたい。入浴時に不穩になる方の為にもっと工夫をし取り組みたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も本人眠たい時は、寝ていただくなどしている。本人の希望に沿って、対応知っている。自室に居る時も意識し見守りを行う。傾眠している時は、タオルを置いたり無理に起こさない様にしている。フロアで傾眠されている利用者には声かけし居室に誘導する。一人ひとりに応じて居室で休んでいただいている。安心して気持ちよく休息の出来る様に心掛けている。日中でも車椅子(常時)の方は、居室にて休む時間を作っている。	3人	個室なのでゆっくり休息出来ている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所手伝い、洗濯物たたみ等。職員と一緒にいる。書道、麻雀など支援している。ビデオ鑑賞を楽しまれる。歌を皆で歌う。その人の残存機能を活用して頂き、出来る事を見出し役割を持たせ支援している。(洗濯物をたたむ、食器拭き等)。一人ひとりに合った楽しみ方を考える。ゲームやボール遊び、外気浴など行っている。気晴らしに外気浴を実践している。	3人	洗濯物をたたむ、干す前の準備、食器を拭く、ご飯をよそう、テーブルを拭く。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつも本人の希望に添って買物や所持金を使うように工夫している。個々に所有している。希望者には個々に少額所有して頂いている。今はなし。	3人	一緒に店に行き、日用品等購入できる。出来れば、お財布を持っていただき、少しお金を入れて利用していただきたい。(自立支援の方)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はお散歩・庭でお茶を飲む等。外気浴、近くのスーパーに買物しながら散歩を楽しんでいる。足湯等。	5人	天気の良い日は、外に出てお茶やおやつを食べるように心掛けている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族のいる方は、たまに外食されることもある。スーパーに買物に行く。	5人	ご家族のいない利用者の対応も考えていきたい。誕生月か、年1回程の利用者の行きたい所への外出をご家族と相談し支援したい。日帰り旅行など、ご家族も含め実践したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家に電話をしたいとの訴えがあった時は、家に電話をしている。	3人	
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる、ご家族お孫さんが多い。 ご家族があまり気を使わず、気軽に訪問できる様に、気を付けている。笑顔で挨拶を行っている。お帰りの際は、お見送りをかね、又来て頂くことをお伝えする。 面会に来所された時は、ゆっくりと居室やフロアで自由に雑談できるよう配慮する。お茶を出している。	5人	声を掛けたり、話をしたり、お茶を出したり、接点を作り笑顔で対応している。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。毎月、職員会議で確認している。 座談会でも確認を取る。ベッドの柵や車椅子での拘束を注意しながらケアを務めている。	4人	拘束をしない。寝たきりの利用者も昼食時はフロアで一緒に食事をする。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵は掛けていない。鍵を掛けないように取り組んでいる。 夜以外は鍵を掛けていない。 利用者が施錠しない限り施錠はしていない。居室に鍵が付いている以上、利用者が掛けるケースもある。 利用者一人で外出しない様スタッフの声掛けを密にしフロアの見守りケアに努力している。	6人	居室は日中開け放しで、玄関も鍵を掛けていない。 居室の鍵が、すぐに開けられるコインを職員が持つ様に心掛ける。(緊急時)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る時等、本人の許可を得る様にしている。又、ロックして声掛け確認をする。 安全確認に日頃努力している。 日中、夜間を通して利用者の所在確認を把握している。 トイレ介助等はさりげなく声掛けしたり、外気浴の時等は見守り安全確認をしっかり支援している。	4人	職員はフロアの見守りを強化し、常に声を掛け合っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の目の届かない所に置いている。 洗剤類・漂白剤等は使用後鍵を掛ける。包丁等は使用後保管場所に収納。 危険物は保管場所を決めて保管している。 本人に合わせて管理している。 食器類は割れにくい物を使用し、はさみ等は見守りながら使っている。	4人	間違いが起きてからでは遅いので、特に気を付ける。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申送りの時に、フラツキが強い人が居たら伝えるようにしている。 何かあったら(転倒等)、事故報告書を出し、それを元にして、会議で再発防止について話し合っている(スタッフ全員に分かるように)。 事故報告書とヒヤリハットの書類に記入し提出事を義務付けている。 常に、見守り一番に取り組んでいる。 薬は、関わったスタッフが記録伝達、転倒は見守り、行動は声掛けし、事故防止の努力をしている。	5人	スタッフ同士、常に気を配り声掛けを重要視し、事故防止に心掛けている。 転倒はいつ起きてもおかしくないという。認識を常に持って心掛ける様努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご家族と密に連絡を取っている。 急変時のマニュアルは作成されているが、訓練は定期的に行っていない。 誤嚥時の道具の使い方、緊急時の連絡方法、避難訓練をしている。	3人	応急手当等知識としての技術をもっと身につけたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は定期的に行っている。(利用者、職員、消防署) 消防署の指導による避難訓練を受け、誘導の仕方等勉強している。	4人	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケース会議や、面会時に話し合われている(報告・相談)。	3人	ヒヤリハット、事故報告書も記録する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化も見落とさず、早期発見に努めている。 管理者が看護師のため対応が早い。見守りで変化のある時(体調変化・異変)はすぐ報告し、職員同士確認・記録・反省しあい、早期発見と対応に努めている。 昨日や夜勤帯の様子を送り送る。	4人	夜間の定期巡視。体調の変化に早期に気付くよう、可能な限りの巡視。注意深く身体状況の観察をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートに常に利用者の薬が変わった事を書かれている。 服薬表ファイルが作成されている。理解出来る様にしている。新しい薬が出た時は、どんな薬か調べる。 薬は、管理者(看護師)が、準備しているので、つい安心して用法用量の理解まで出来ていない。 服薬に関わった職員が確認記録する。一人ひとり飲み終わるまで見届ける。	5人	管理者が記入してあるノートを勤務日に見て確認している。 薬の副作用に関しては理解不十分である。自分の家族と思ったら、用法用量や副作用も気になるはず、出来る事から努力してみたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く取り、食事野菜(根菜・繊維質の多い食材)を多く取り入れている。 便秘3日目からセンナ茶を飲んでもらい、牛乳、ヤクルト、ヨーグルトなど勧めている。 毎食前の体操等行っている。お腹をさすったりする事もある。今迄の本人の解消の仕方を支援し、無理な時は、本人納得の上で、薬を服用する。 送り送りの時に便秘者を伝え、便秘がある方には、マニュアルに従い予防と処置を行う。 水補チェック表に基づき、対応している。それでも駄目な時は浣腸。 身体を動かす事は、出来る時に出来るように努めている。	5人	便秘者の把握と、利用者一人ひとりに合った対応をする。 水分補給したり、体操で体を動かしたりトイレ誘導の際、お腹をさすったりしている。 便秘になってから対応になっている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週1回歯科往診。口腔ケアを施す。歯科衛生士による歯磨き指導を受けている。 個々の力に合わせ口腔ケアを行っている。 昼食後は口腔ケアをされていない方が多い。寝る前は必ず行っている。 ベット上の方は必ず行うが、他の人はなかなか全員は出来ない。	6人	義歯の洗浄。就寝時と起床時の口腔ケアの励行。 毎食後、行っていない。毎回食後はうがいだけでも出来るようにしたい。毎食後で切るよう、統一に努めたい。一人で出来ない利用者は介助を実施している。 夜は全員で来ているので、何とか日中も出来る様にしてみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作り、水分補給に務め(1日1000cc)、食べる量の少ない方もチェックしている、その時の声かけ。日々の様子を観察しながら、食事の形態(ミキサー、刻み食)や量を工夫をしている。 普段、全部食べる人が、食べない時などは申し送っている。 管理栄養士の献立に添って作っている。 起床後、入浴後は必ず水分補給を行っている。 小まめに声掛けして、数種類の飲み物を用意して、本人に決めてもらう。	4人	水分摂取量の少ない方のinチェック表を作り記録している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年1回インフルエンザの予防接種を行っている。 利用者や職員の手洗い、消毒を実行している(外出後、トイレ後、食事前等)。 時節によりマスク着用。洗面所に手洗いのマニュアルが貼ってある。 研修に行ったスタッフが、マニュアルを作成し、スタッフ全員、目を通してしている。 内部研修。座談会等で勉強会を行っている。	5人	面会者の方には、消毒、手洗い励行。冬場はマスク使用など。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、布巾、台布巾。夜はまな板、キッチン道具を消毒している。冷蔵庫の温度もチェックして、賞味期限もチェックしている。 内部研修(食中毒予防の講習)で報告。全員で管理に努めている。 調理員は食中毒予防に努めている。 手の洗浄も頻繁に行っている。	5人	野菜等生物の洗浄。魚、肉等十分に火を通す。 布巾消毒、調理器具等。 ハンドペーパー利用。 職員の認識統一が必要。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	お花・金魚を置き、お香をたいて、入ってからの雰囲気は大切にしている。 足湯がある。玄関先に花壇があり季節感が味わえる。親しみやすくしている。 季節に合う物を置き、観賞出来る様に工夫している。建物周囲には癒される空間がある。 玄関前にベンチを置き、外気浴をしながら、顔見知りの方も増えて挨拶を交わしている。	3人	外には、季節の花壇、室内には生花が活けてある。時々、テーブルに花がある。 金魚鉢があり金魚が泳いでいる。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、毎月季節の花が植えてあり、廊下フロアにも季節の花を感じてもらえるよう飾っている。 音楽をかけ、季節にあった装飾(貼り絵等)、書道作品を飾っている。 金魚を飼ったり、行事の写真を貼り、季節感のある貼り絵などで利用者楽しんで頂ける様に工夫している。毎日の掃除の実行。	5人	金魚の餌やりを、ご利用者と一緒に行うようにしたい。 脱衣所は、冬場ストープだけでは寒く工夫が無い。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでテレビやDVDを観ながらゆっくり過ごされている。CDを聴くことも出来る。 行きたいところに移動されている。スタッフがさりげなく見守る。 テーブル席とゆっくりとテレビが見れるソファ席があり自由に座れる。 テーブルとソファの間を行き来する工夫に努めている。	4人	個々の好みに合ったDVDなど揃えてある(美空ひばり、村田英雄など) 利用者同士ソファに座り談話したり、テレビやビデオを自由に見られる様に配慮されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすの中など気が付いたときに整理する様にしている。 本人お気に入りの家具や写真(家族)等が居室にあるので、心地良く生活出来る様工夫されている。ご家族が本人を思って、好みの品や物を置かれる。 たんす、仏壇等、入所の際持参されている。	5人	日中はフロアで過ごす事も多く、時々体を休めたい時に居室に入ることもある。掃除も出来るだけ心掛ける。 利用者、ご本人の希望が聞ける方には聞いて、工夫する様努める。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個室の窓を開け換気し、温度調節にも気をつけている。臭いには、お香。消臭剤で対応している。1年中、気を使っている。 温度調整は個人差がありフロアは皆の意見を聞いて、居室は利用者に合わせている。体調の変化にも気配りをする。体温調整が難しいので、利用者に合わせてこまめに対応している。早番にて出勤の際は、居室の換気に努めている。	4人	換気や温度調整は細やかにされている。 居室に消臭剤を置いてある部屋もある。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所手すりが取り付けられている。 トイレ、浴室、廊下はバリアフリーになっている。 居室の扉は引き戸になっている。 リハビリでADLを下げない様にしている。 個人の機能を活かしたりリハビリを実践している。	5人	手すりが多くあるので、リハの充実を計りたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	レクを行い、各利用者のできる部分、得意な部分を發揮していただいている。 混乱していそうな時は声掛けを多くし、安心していただくようにしている。 不穏時には、ゆっくりと対応し笑顔が戻る迄工夫する。 全員一緒ではなく、一人ひとりに合った手伝い等してもらっている。	2人	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に出たり、足湯に入ったり、いつも楽しんでもらっている。駐車場のベンチで外気浴、お茶を飲んだりと楽しめる。足湯の傍のベンチに座り雑談しながら楽しまれている。 建物周辺は舗装されている。又、フロアから外に出るスロープが新しく出来、利用者を始めスタッフも楽しめる様になった。 ベランダ利用を実施していない。	7人	環境も良く、庭も広々としていて、外気浴をしたり、散歩を楽しまれている。 足湯はもっと活用したい。 良いかどうかは、実施していないので不明だが、ベランダに直物を置いて見て頂きたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に つけた人数です	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	6	ほぼ全ての利用者の
		4	利用者の2/3くらいの
		1	利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	3	毎日ある
		6	数日に1回程度ある
		2	たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	6	ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	4	ほぼ全ての利用者が
		6	利用者の2/3くらいが
		1	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
		4	利用者の1/3くらいが
		4	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	10	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	8	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	9	ほぼ全ての家族と
		1	家族の2/3くらいと
		1	家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

無記入:1

無記入:2

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように	無記入:1
		3	数日に1回程度	
		5	たまに	
		2	ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている	無記入:4
		7	少しずつ増えている	
			あまり増えていない	
			全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	4	ほぼ全ての職員が	無記入:1
		5	職員の2/3くらいが	
		1	職員の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	6	ほぼ全ての利用者が	
		4	利用者の2/3くらいが	
		1	利用者の1/3くらいが	
			ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	10	ほぼ全ての家族等が	
			家族等の2/3くらいが	
		1	家族等の1/3くらいが	
			ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念に基づき、その人らしく暮らせるよう、スタッフは日々工夫、努力を行っています。そして質の高いケアをしていけたらと思っています。

施設内外から外へ出るスロープも出来、外気浴の時間も多く取れるようになった。

足湯があり家族にも利用して頂けて家族サービスも計れる。

職員の介護に対する思いが深い。

個人的にはパーソンセンタードケア(その人を中心としたケア)を徹底するよう目指します。

介護者として出来ない事が沢山あるということを受け入れなければならないが、人として、人と人とのつながりを保つ事が出来れば出来ることは沢山あると思う。良いケアとは、その人を理解し、継続的な触れ合いを築こうとする試みであり、それには、混乱した人一人ひとりが人として又、良いケアとは、他の人に何かをするということだけに留まらず、自分自身についての認識を深めることでもあると思う。